

博士前期課程(修士) / 実践看護学領域 / 成人看護学分野科
目コード:240007-0

緩和ケア演習Ⅰ Palliative careⅠ

担当教員	臺 美佐子、瀧澤 理穂				
実務経験					
開講年次	1年次前期	単位数	2	授業形態	演習
必修・選択	選択	時間数	45		
該当ディプロマポリシー	(1)	(2)	◎	(3)	○
Keywords	治療期の緩和ケア、症状マネジメント				
学習目的・目標	<p>学習目的: 治療期にあるがん患者の身体症状を病理生理学的に把握し、治療効果と治療に伴って生じる看護上の問題を包括的にとらえるための高度な臨床判断能力を養い、早期からの痛みや、身体的、精神的、心理社会的、スピリチュアルな問題、そして医療者が直面する問題について、他職種と協働しながら医療介入するに必要な知識・技術を習得する。</p> <p>学習目標: 1. 緩和ケアについて歴史的変遷およびその概念や治療との併行診療について理解し、その現状と問題点について追求できる。 2. がん性疼痛の発生機序や診断、患者の苦痛を緩和する適切なマネジメントについて理解し、事例をもとに介入法について探求できる。 3. 患者や家族が抱える全人的苦悩(苦痛)について理解し、そのセサメントおよび介入法を理解できる。 4. 緩和ケアに携わる看護師の苦悩と教育について理論を用いた介入について理解する。 5. がん患者へのリンパ浮腫ケアの症状マネジメントと実践法について身につける。</p>				
授業計画・内容					
回	内容			授業方法	担当
1-2	がん看護における緩和ケアの現状と課題			講義・討議	臺
3	がん性疼痛の診断と治療の実際			講義・討議	臺
4-5	治療期におけるがん緩和ケアの実際			講義・討議	臺・瀧澤
6-7	補完・代替療法とエビデンス			講義・討議	臺・瀧澤
8-12	がん患者へのリンパ浮腫ケアの症状マネジメントと実践法			講義・演習	臺
12-13	緩和ケアにたずさわる看護師の苦悩とその対応			講義・討議	臺・瀧澤
14-20	国内外の文献から、治療期における緩和ケアに関する重要な論文を検索し、研究の動向・早期からの緩和ケア実践での課題を検討する。			演習	臺
21-25	治療期にある患者の疼痛の訴えから、症状についてエビデンスに基づいた診断をし、その看護実践の有効性を検討する。			演習	臺
教科書					
参考図書等	随時紹介する				
評価方法・基準	グループワークやディスカッションへの態度(50%)およびレポート(50%)				
関連科目	緩和ケア演習Ⅱ				
教員から学生へのメッセージ	この演習では、緩和ケア領域で求められる看護師の専門的知識と技術について学びます。講義と討議・演習を通して、緩和ケアにおけるエビデンスに基づく情報を理解し、看護師の役割について探求していきます。				